

## 令和5年6月定例会 一般質問 筒井寛議員

※代表質問・一般質問の会議録より抜粋し掲載しております。（各議員からの「質問」（問）に該当する部分を黄色マーキングしております。）

### 「市民生活の利便性で「奈良いち」になる」

○筒井 寛 議長のお許しを得ましたので、一般質問を行います。

今回は、日常生活レベルでのもう市民生活の利便性を向上させるための工夫を市として行政としてできることはないものかという発想から出た質問であります。

最近、町なかのドラッグストアあるいはショッピングモール、あるいは鉄道の駅の改札を出たすぐのところなど、宅配の荷物を預けておくことができる、そういう宅配ボックスが設置されていることを見かけることが増えてきて、便利そうだなあと漠然とと思っているだけで、特に気にかけてはいなかったのではあります、宅急便などに詳しい人などから話を聞きますと、これらは個人宅に置かれる宅配ボックスとは違い、一般的にはオープン型宅配ボックスと呼ばれるそうではあります、受け取りだけではなく、発送のほうもできると聞きまして、これは少し便利だなあと興味を持ち始めたところへ、たまたまテレビやネットなどのニュースで運送業の2024年問題というものがこれから深刻化していくというような、そのような話題が出ておりまして、となると、これはその問題の解決と市民が便利になることというのがセットで考えられるのではないかと、そのような発想になりまして、さらに、それはそういうことであれば、行政が関わっていく面もあるのではないかと考えたわけでありまして、

ということで、まず本市市内にオープン型宅配ボックスと呼ばれるようなものは現在どれぐらいの数、どのような場所に設置されているのか、そういうなんは把握されているでしょうかという質問をさせていただきます、壇上からの質問を以上とします。

○企画部長 本市の設置状況でございます。香芝市においては4か所ございまして、1か所はウエルシア香芝磯壁店、2つ目は近鉄五位堂駅、3つ目はココカラファイン香芝二上店、4つ目はコープ真美ヶ丘店、この4か所に設置しているものと把握いたしております。

○筒井 寛 現時点で市内に4つあるということで今答弁いただいたわけでありまして、それが多いか少ないのかと、香芝のこの人口規模と面積というものから考えて、県内の他市町村との比較した場合どうなるのかいうのを知りたいので、例えば今のは市内だけでなく、県内他市町村の設置の状況っていうのは、それは分かるものでしょうか。

○企画部長 奈良県内の先ほど申しました同じ企業の設置状況でございますけれども、県内では

奈良市 13 か所、大和高田市 1 か所、天理市 1 か所、大和郡山市 4 か所、橿原市 6 か所、生駒市 4 か所、葛城市 1 か所、上牧町 2 か所、平群町 1 か所、そして香芝市 4 か所ということで、合計で 37 か所設置されているものと把握いたしております。

○筒井 寛 そうですね。奈良市、それは多いのは当然やろなかなかあとというふうに思います。ただ、人口と総面積というのを考えたら、香芝市のほうが計算上は密度は高いのかなあとというふうには思うわけではありますが、郡山とか生駒、橿原というのは大体同程度で、高田や天理はまだまだこれからなかなかあとというような、そんな話の設置状況やというふうにこう考えます。

私は、この質問するに当たり、このことについていろいろ聞いてみて、聞こえてくるところによりますと、聞き及んでいるところによりますと、よその市では、市民さんのほうから市に対して、こういうオープン型宅配ボックスって言われる、そういうなんを設置してほしいという要望が市に対してあり、で、その要望を受けて、行政がこういうオープン型宅配ボックスと言われるようなもの、これを置いているその企業に対して積極的に誘致をしていってるというような、そういう話もちよっと聞いたわけなんですありますが、実際のところ、そんな感じで、そういうオープン型宅配ボックスっていうようなものを置くとなった場合に、その設置に当たって行政が関わっていける点って、そういうなんはあるもんなんですか。

○企画部長 公共施設へのオープン型宅配ボックスの設置などはそれに当たるかというふうに考えます。例えば、直接行政主導で関わっている事例ではございませんけれども、東京都の世田谷区が官民連携指針に基づく公共サービスのさらなる充実を目指して、宅配ボックスの運営会社であるパックシティジャパンからの提案により、区役所等の公共施設に設置してる事例ですとか、埼玉県和光市などは来庁者の利便性向上及び公共施設の余剰場所の貸付事業として行ってる、そういった事例がございます。

○筒井 寛 なるほど、公共施設に置くということであれば、直接的ではないけれども、行政の側から誘致しているようなという事例があるということは把握してるということですね。直接的ではないというふうな、あったと思うんですが。そういう意味では、この今例示してくれはった件というのは随分と限定的ではあるかというふうには思うわけではありますが。そういうことで、取りあえずは誘致はあり得るということであるならば、少なくとも、それは市民生活に対する利便性向上に対してメリットがあると考えられる自治体があるということやというふうに考えることはできると思うんですが。

では、本市としては、こういうオープン型宅配ボックスとか言われるもの、そういうなんでもパックシティジャパンと言われる、あんまり名称はあれですが、PUDOとか言われるものがあったりするんですが、そういうなんが設置されることのメリットみたいなものは市としてはどのように考えておられますか。

○企画部長 オープン型宅配ボックスは、駅やドラッグストア等に設置されることで、日中自宅での受け取りが困難な方が 24 時間荷物の受け取りが可能となるということが大きなメリットかと思います。このため、市民の利便性向上が図られるとともに、宅配業者の再配達の減少によるドライバーの負担の軽減ですとか、またそれに伴う市域内の二酸化炭素排出量の削減といったようなものも図れるものということで、メリットというふうに考えてございます。

○筒井 寛 非常に一般論的な、概論的なという話ではあったと思いますが、それでもメリットがなくはないというふうに一応は感じておられるというふうに答弁では捉えさせてもらいました。

繰り返しになりますが、メリットがあるかなみたいなところであるならば、それを踏まえて、どうですかね、本市としては、こういうオープン型宅配ボックス等を行政のほうから積極的に誘致していくというような、そういう考え、気持ち、そのようなところはあり得ませんか。

○企画部長 PUDOと言われるようなものも含めまして、オープン型の宅配ボックスは、利便性向上のメリットは、先ほど申しましたように、ある一方で、荷物の大きさですとか預かり期間などに制限があることですか、インターネット通販市場の需要拡大とドライバー不足、また新型コロナウイルスの感染症を契機とした非対面で荷物を届けるサービス、いわゆる置き配といったようなものの普及もありまして、行政主導での在り方というのについては、そういったものを勘案して、総合的に判断する必要があるのではないかとというふうに考えてございます。

○筒井 寛 総合的に判断する必要があると言われれば、それはもう全くそのとおりでありまして、総合的に判断して、市民生活の利便性向上に大きく寄与するので、行政が関わっていく価値があると判断されれば、そういう話、誘致していくということもあり得るかもというふうに考えているのかなあというふうに聞いておきます。

今、非対面を望むことから置き配がっていう話ありましたけれども、先ほども言いましたけど、発送もできるという意味で言うと、非対面で発送もできるというようなことでありますので、それもメリットの一つに加えておいていただいたらというふうに思うわけではありますが。そのような形で、行政が関わるポイントとしては、先ほどの公共施設への設置ぐらいしかなかないか難しいというような話ではあったわけではありますが、加えて、別の面で、もう一点、行政が関わるというか、関わっていかざるを得んというか、もう必然的に行政が関わってくる点として、配送トラック、集配トラックと言うほうが正しいか分かりませんが、それが荷物の積み下ろしをする場所、荷さばき場とか言うらしいんですが、それを市が関わって確保していくというような形でその事業者に協力をしていくという、そういう関わり方っていうのはできないもんなんでしょうか。

○企画部長 集配、配送トラックの駐車場所にもよるとは思うわけでございますが、宅配業はあくまでも民間企業でございますので、基本的には配送業者自身が自ら確保していただくものであるというふうに考えてございます。

○筒井 寛 ええ、そうですね。当然のことですね。民間営利企業が自分たちの利益と業績を上げるために自分で確保するというのは、それは当然であるということなんですけども。でも、例えばコンビニなんかもう既にそうやと思いますし、それから今言うてる、話題にしてるオープン型宅配ボックスなんかは今後ということなると思うんですが、社会インフラの一つになっていくものというような、そういう考え方もあるかというふうに思うんです。ところが、道路事情の悪さであるとか、駐車禁止、駐停車禁止、その場所に車を止めなければならない、そういう配送業者が困っているというようなことはよく聞かれる話でありまして、それに対して自治体として何らかの協力して、手を打っていくというようなこともできないのかなあ。っていうか、あるいは、というよりも、そこそこ自治体が協力して、そういう荷さばき場みたいなものを設置していったらというふうな話も、これも聞こえてきたりするわけでありまして。この辺は、先ほどの話との関係で難しいとは思いますが、あくまでも一般論であり、またまた一般論ではなくて、うちの本市の事情、香芝の事情ということも合わせ持って、公共施設または公共の場所とか、そういうところに、そのような場所というのはトラックの駐車場所、配送、集配のトラックの駐車場所、そういうものを設置していくことは可能なんではないかなというふうに思うわけでありまして、その辺はいかがでしょうか。

○総務部長 お答えいたします。

公共施設等の行政財産は市の行政目的に直接供用される財産でありまして、その用途及び目的以外に供することはできず、また一部の例外を除いて貸付け等もできないため、駐車場所等の設置につきましては現状難しい、このように考えてございます。

○筒井 寛 市が管理してる土地、所有してる土地っていうのは普通財産、行政財産とか両方あると思うんですが、今言うてくれはった、現在使われていなくて空いている土地でもそれは難しいんですかね。現状ちょっとできないみたいなことだったんですが、現在空いている土地でも難しいんですかね。あるいは、市が管理してるというふうになると、市道、そういうところで、線で区切って、一部だけ、特定の車に対して駐車禁止除外にするとか、そういうなんて都会の都心部とかではそういう例はもう今既に実際あると思うんですよ。だから、例えばそういうところでは貨物集配中の車両のみ駐車可の区間を設定するとか、集配中の車は駐車規制対象外とするとか、実際にもう都心部ではそういうことはやってるというふうに、そういう事例はもう既にあるかと思うんですが、それはそういうやってはるところだけの特別なことであって、香芝でそういうことを設定していくとかという、そんなのは難しいもんなんですかね。どうで

しょう。

○都市創造部長 現状、道路上に配送トラックの駐車場所を設置するということはなかなか香芝市内では難しいかなというふうを考えております。

○筒井 寛 うんうん、そうですか。要するに、現状では難しいってということで、これまた分かります。公の場所に設置するっていうのは難しいのかなあ、仕方ないかなあというふうに思うんですが。先ほども言いました、こういう事例を、道路管理者と警察とか公安とかというところで、そういうところで協議しながら、貨物車両、配送、集配のトラック、そういう人が利用できる、そういう場所の確保ということをしてるようなところも実際には事例としてあるので、もちろん私ももっとしっかり勉強して、どういう形でできるのかということは考えてはいきたいわけではありますが、理事者側といたしましても、もうちょっと突っ込んで、できたら研究していただけたらというふうに思いますので、よろしくをお願いします。

そういう公の土地が難しいというような話になるならば、例えば民有地でちょっとでも余裕があるというようなところで、それをうまく使えるかもしれないというようなところがあった場合、その土地の所有者と運送業者との間に入って交渉の場をセッティングするとか、そういう形でこの話をスムーズに進めていくというような、そういう形での行政の絡み方、関わり方ってというような、そういうことはできませんか。

○企画部長 民有地における配送トラックの駐車場確保の交渉等に行政が関わるかというところでございますけども、基本的には関わることはできないというふうに考えてございます。

○筒井 寛 ですね。それも仕方ないですわね。いやいや、もう全然、そうやってこっちは質問して答弁をもらってるわけですから、当然のことかなあと思いつつも、もうちょっと何とかでけへんのかなあといろいろ思いつつ、ほかんとはほなどうしたはんねやろなあとかいろいろ考えながらここまで質問してきて、なかなか厳しい答弁しか出てこないという感じなんです。ありますが、この後続いて質問していてもまた厳しい答弁が返ってくるのかなあとは思いつつ、一応考え方とか理屈、どういうことってという話で答えてもらったんですが、もうちょっと具体的に、実際の場所を想定しながら、もうちょっと考えては何とかならんかなあとか思うわけではありますが、具体的な場所で、例えば近鉄五位堂駅の場合、改札出た、そのすぐ真ん前のところにオープン型宅配ボックスのPUDOというのがもう既にありまして、そこに荷物集配、入れたいがあるやつを回収して、また次っていう、したいんですが、車を止めるところがなかなかないということで、そのような場所があると、今具体的に例えば近鉄五位堂駅の場合っていうようなことで、そのようなことを想定した場合、どう言われるか、半分予想もされたりもするんですが、そういう集配のトラックを止める場所とか荷さばき場とさっきも言いましたが、そのような場所、そういうなんを設置するというのは現状では、例えば北側ロータリーの場合、

一応場所的には、面積的には広く見えるけれども、なかなか混雑してて、もちろん私も当然それは知ってるわけで、そうなってきたときに、現状ではやっぱり相当難しいというような話になってくるのでしょうか。

**○都市創造部長** 今議員もおっしゃっていただいたとおり、近鉄五位堂駅の北側ロータリーにつきましては、駅利用者の送迎車による交通渋滞が常態化していることから、現状、荷さばき場の設置は困難であると考えております。

**○筒井 寛** まあ、そういうことですよ。ずっとそう言うてるやんと、そう言われてしまいそうではありますが。確かに、現状としては大変厳しいのかなあという答弁をもらったかなというふうに思います。

南側はどうですか。南側って、カラータイルブロックの舗装をしてる部分がありまして、鉄のポールが立ってるところがありまして、そこまでは近鉄さんの土地ということで理解しておるわけではありますが、その外側にはアスファルト舗装してあるところがあって、1台分タクシーが止められるような白線の枠が引いてある、タクシーの待機場所になってると思うんですが、そこをうまく使い分けるとか、そういうなんの南側の場合の状況というのはどうですか。

**○都市創造部長** 南側のアスファルトの舗装されてる部分ですけども、その場所につきましては鉄道会社の所有地であり、本市の管理している道路ではないことから、本市が荷さばきスペースを設置することは困難でございます。

**○筒井 寛** あの鉄のポールのところから外側も近鉄さんの土地なんですね。あれ、お店があって、普通に市民としては使ってるし、車も、私も車もちろん何回も通ってますけど、それは使わせてもうてるということで、あれは近鉄さんの土地ということなんですか。ということで、となると、非常に現状においては北側も南側もいわゆる貨物車両の荷さばきをする場所を設置するというのはもう全くの今は無理な状況ということで話を聞き、さらに近鉄さんの土地って聞いた、その部分について、その業者、業者というのは、近鉄と運送業者の間に入って、その交渉の場を持つというのも行政がすることではないというのも、それももう返事がありました。

ということで、現状については大変厳しいというようなことがあったんですが、現状はそうありますが、今構想として、今市として、香芝市として、構想としてやりたいこととして、北側ロータリーを改修していこうというような、そういう考え方というのが今出てきてるかなというふうに思うんです。今、もうほんまに朝夕は、特に朝よりも夕方のほうがもっとひどいと思うんですが、むちゃくちゃ大変な混雑でありまして、バスもタクシーも困っておられるという状態であると。その状況を解消しようと、あの北側ロータリーのデザインの改修、改善をしていこうという構想を市として持ってるというふうに思うんですけれども。だとすれば、その目的は当然そういう交通、公共交通体系の整備であり、それはそのまま市民生活の利便性向上

というのに直結してて、ならば、その一環として、発送までできるオープン型宅配ボックスがあって、それが有効に使えるならば、当然それはまた利便性向上であり、そこにそういう荷さばきとかするための場所を分けてつくるということは、そのロータリーに流入する車の分離っていうことができ、それは渋滞解消につながるというふうな話であれば、トラックの荷さばき場みたいなものを設置、設定することというのは非常に今の話からすると利にかなってるといふには私は考えるわけでありますが、その辺はどうでしょうか。その北側ロータリーの整備、まだ構想ですか、整備計画と言うてええのか、まだ構想段階かもしれませんが、それをつくるに当たって、荷さばき場の設置みたいなものをその中に、その構想計画の中に組み込んでいくというようなことはできそうでしょうか。

**○都市創造部長** 先ほどもお話しさせていただいたように、北側ロータリーについてはかなり交通渋滞が常態化しております。そういったことから、公共交通事業様とも協議した中で、今後改修計画を策定しようとは考えております。その部分につきましては、安全性の確保ができれば、荷さばきスペースの設置を含めた、安全対策も含めて検討したいというふうに考えております。

**○筒井 寛** 荷さばきスペースの設置をするということまではもちろん言うてもらえなかったわけではありますが、設置をするかどうかの検討はするということふうに今言うてくれはったと捉えて、そういうふうに答弁してもらったと認識しておきます。だから、一応今回こういう形で質問もさせていただいたんで、安全対策がちゃんとできる上で、安全対策の一環としてっていうことなのかな、それも含めて、検討してみる価値、余地はあるというふうに言うてくれはったのかなと思いますので、私としては、その改修が出来上がった、そのときにはそういう荷さばき場があるのかな、含まれてるのかなということを期待はしておきます。

そうすると、今北側ロータリーが現状あのような状態なわけではありますが、その改修、そういう改修、改善が出来上がるのは大体いつ頃になるというふうな算段をされてますか。

**○都市創造部長** 現在、関係所管課と協議させていただいている中でこういったご返事が出てくるか、今後の協議の内容についてになるんで、年数的には、できれば5年以内程度をめどとして改修したいというふうには考えております。そのことによって公共交通機関のスムーズな交通できるように、また渋滞解消になればというふうに考えておりますので、そういったぐらいの年数を考えております。

**○筒井 寛** 5年ぐらいということ、5年ぐらいをめど、大体5年ぐらいの中でということ、申し訳ない話、もっと先の話かなと思ってたんですが、5年ということであれば、めちゃくちゃ遠い話ではないなあと、大変うれしく思いながら聞いておりました。本当に、今日はトラック止める場所みたいな話ではしてはいますが、5年ぐらいの中で、5年以内の、も

う分かりませんが、ざっくり、それぐらいの中で五位堂駅の北側ロータリーが改修されて、すっきりした、そういう新しい姿を近々に見られるというふうなことであれば、それは私一人個人の話じゃなくて、市民にとっては大変ありがたい、うれしい話かなというふうに思いますので、楽しみにしておきますので、よろしく願いいたします。

ということで、今回は、私の質問ですが、ほんまに大変身近なところでの市民生活の利便性向上というようなところでの視点であったんでありますが、一番最初冒頭にも言いましたように、運送業の 2024 年問題っていうのが引っかかっておりまして、ここから、これやったら行政の出番もあるのかなというふうなことで質問になったわけではありますが、例えばオープン型宅配ボックスを行政側から積極的に誘致していると聞き及んでること、そういう自治体があるというようなこともありましたし、またそれがこの 2024 年問題と私はリンクして思ったので、しっかり市としても関わってほしいと、気にかけてほしいというような思いもあって、今回こうやって話をしてるわけではありますが、運送業の 2024 年問題、中身とかはもう多分認識してはと思うんで言いません、ここで細かく言いませんが、運送業の 2024 年問題というものに対して、市としては関心、行政としての関心というところではどのように捉えてはりますでしょうか。

**○企画部長** 運送業の 2024 年問題に関しましては、物流業界におけるドライバーへの時間外労働の規制強化により、人手不足の深刻化や輸送量の減少が懸念されているというふうに認識してございます。政府においては、この 6 月 2 日には関係閣僚による物流改革に向けた政策パッケージというような形で示されております。市民生活にも影響がある社会問題というふうに認識しておりますけれども、いわゆる物流や消費者の意識改革といったような国レベルの問題であることから、これは政府による対策が重要であるというふうに考えてございます。その上で、県やほかの市町村などと足並みをそろえまして、香芝市として可能な対応というのは実施すべきであるというふうに考えてございます。

**○筒井 寛** そうですね。もちろん国策として国が考えてもらわなあかん問題やと、それはもうもちろん私もそうやと思います。ただ、当然国が国策として考えやなあかん、こういう方針で、当然それに対して国は国家の予算としてつけて、それは、でも、基本的には都道府県、あるいはその先、各基礎自治体に下りてきて、そこで取り組むという話になりますし、また市としてできることはやっていくという考え方もあるというふうにも、当然こう言うてくれているわけありますから、例えば市として可能な対策というのの一つに今回話をしてきましたオープン型宅配ボックスなんかの設置を誘致していくというようなことも、これもあるんちゃうかなあというふうには私としては考えるわけではありますが、それも含めて、例えば具体的にできること、市としてですよ、市として具体的にできるようなことは、この問題の対策としてでき



ることってというのは、考えられることは何かありますか。

○企画部長 香芝市として運送業の 2024 年問題に関する直接的な対策は難しいというふうに考えてございますが、例えばですけれども、SDGs の考え方の下、二酸化炭素排出量の削減といったような課題解決を含めまして、これも例えばですけれども、再配達を減少させるために、個人宅の置き配を推奨するような取組、こういった先進事例などが他府県にございますので、そういった事例などを研究しながら、香芝市で具体的にできることというようなことを考えてまいります。

○筒井 寛 直接的にはただ難しいとか言うたら、何をもちって直接的か、そうか、そうでないかとかというのはなかなかその判断しにくいところではあるかと思うんですが、例えば置き配を推進、推奨というのは、これはもう十分にしっかりとこの問題に対する対応策をというふうに考えてくれるというふうにも思いますので、様々研究していただきまして、もちろん私も頑張っって、いろいろ研究して提案もしていきたいなというふうにも思います。その中に今回のこのオープン型宅配ボックスというのも含めて考えてくださいねということ言うておきますので、よろしく願いいたします。

今回、この質問をしてきたわけなんですけど、この質問するに当たっていろいろとこう調べたり準備したりとか、そういう段階で、最初、この話どこへ持っていったらええのかなあとかいうような、そういう話でなかなか、ちょっとうろろうしたんですよ。どこにというのは、どの課という意味でね。どういう部局、どの部局がこの対応してくれるのかとか、いろいろそんなところから始まりまして、実際いろんなところで話をし出したら、いや、それはこっちにも関わりますねえとか、その話やったらあっちの課ですかねえとか、いろいろ結局最終的にはたっくさんの部局にまたがって相談していかなあかんような話になってって、もうたっくさん人が集まってもらわなければならないような、そういう事態になったりもして、私としては、こっちのほうにちょっと申し訳ないな、こんなにようけ人に集まってもらわなあかんような大層な話になったんかなあというように、そういう事態、状況がありまして、申し訳ないなと思いつつも、ただ、いやあ、ちょっと縦割りやなあというふうに、不便やなあというふうに思うことも多々あったと。もうちょっと横の連携がうまくできてたらというふうに思う面があった、庁内の組織の問題でね。というのは、もう少し柔軟にできてたらと感じるようなことがこうあったわけでありまして。今、実際に庁内の組織という意味で、市役所内の、所管、部局、そんなんがいろいろこうまたがるような案件が出てきた場合、あるいはどこの所管か分からへんねんと、どこへ相談持っていったらええねんと、そのような話、そういう場合、どこがどういうふうに調整してくれるのかっていうようなことについてちょっと質問させていただきたいんですが、その辺はどういうことに、どこが調整するとか、そういう話になってますか。ちょっとこれに絡

めて質問させていただきます。

**○企画部長** 市の所管が複数にまたがるような場合ですけれども、基本的には該当する所管の間で連携を図って対応するというのが一般的でございます。また、どの所管が対応すべきか不明な場合については、最初にお伺いした所管が一旦の窓口となって、関係所管につなぐというのが自然であって現実的なのではないかなというふうに考えております。しかしながら、今回もそうだったんですけれども、それ以上の内部調整ですとか、あるいは庁内の各課の連絡調整などが必要な場合につきましては、これは企画部の企画政策課が所管するものと、担当するものというふうに認識いたしてございます。

**○筒井 寛** 取りあえず、分からなかったら、まずは企画政策課へという話やったかなというふうに思うんですけれども、それはそれで分かるんですよ。だから、企画政策課が横串を通すというか、連携するための調整をすとか、そのようなイメージというのは今言われて、うん、まあ、そうかと、今回のことでもあって、そういうふうに調整してくれてはんのかというふうなことは、それはそれで、なるほど、ああ、そうですかという話にはなるんですが、その話もやけど、もう一步踏み込んで、組織としての横の連携ていうかな、そういうなんの柔軟性ていうのかな、市庁舎内の各課、各部局でそういうなんがうまくできるような体制っていうのはできへんのかなあというふうなことで、もう一言できたら、それをトータルで見渡せる副市長の立場からできたら、ちょっとそういうところをうまくできるような、そういうふうになっていかへんのかなあというところ辺で、できたら副市長からコメント、答弁いただけたらと思います。

**○副市長** 筒井議員におかれましては、いろいろご相談いただく中で時間もかけていただいた部分、非常に申し訳ございません。

先ほど企画部長がご答弁申し上げましたとおり、所管が複数にまたがる場合、最初にお伺いした所管が一旦窓口なり調整対応させていただきますが、その上で、できるだけスムーズな調整が図れるよう、調整力の向上に努めてまいりたいというふうに考えてございます。また、その調整が複雑である場合においては、先ほども申し上げましたように、企画政策課のほうで調整もさせていただきますし、なかなか調整ができない場合においては、私のほうも調整に入らせていただきたいと思いますと考えてございます。

**○筒井 寛** 当然、企画政策課がうまくやってくれるようにしてくれはると、さらには調整力をアップするというようなことで言うてくれはったわけではありますが、組織としてうまくこう連携がいくような、柔軟な形というのかな、そのやり方の何か部分で、それこそ例えば副市長をトップにするプロジェクトチームが、大きな政策課題の場合は、そういうふうなこともきっとあるだろうというふうに思う。各課から人が集まって、そういうなんもあるだろう。こんな

小さな話はそんな話にまでいかへんと思うんですが。そういう何かこう横の各課がうまく調整しながらというよりは、どっかで一つまとまってできるような、そういう組織的な柔軟な動きができる組織っていうものをできたらつくっていただけたらというふうな、そういうふうなこともちょっと期待しておきたいかなというふうに思います。

結局、私は、小さな意味で日常生活を、市民生活の利便性の向上という話で話が始まっているんですが、そういう今言うたような庁内の調整という、それがスムーズに行くことも実は市民生活の利便性の向上につながることの一つだというふうにも思いますので、これまたその辺もしっかりと市庁舎内のそういう組織の連携、スムーズに行く、そういう行政の在り方というのも考えていただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

香芝市が香芝市民全市民にとって便利で暮らしやすいまちと思われ、香芝に住んでよかったと、全ての市民がそう感じていただけるような、そういうまちになっていきたい、していきたいという、そういう思いを込めておきまして、今回の私の質問を終わります。